



グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 幻の宮の上シャンツェ

02 トンボの羽化は幻想的だけれど

Vol.349

2026/09/01



八重柏誠《涼を求めて》

Photo 今月の1枚

真夏日が続く8月の美幌町。涼しげな場所を求めて古梅^{ふるうめ}の森の中へ行ってみました。深緑の森、美幌川沿いの林道を進んで行くと、苔生した石切場が見えてきました。今は使われていない古梅軟石の石切場跡です。美幌川のせせらぎの音も相まって、涼を感じることができる場所でした。(八重柏誠)



01 Green Column グリーンコラム

幻の宮の上 シャンツェ

写真／美幌博物館収蔵資料・文／八重柏誠

ちょうど1年前、『グリーンレター』vol.337の「今月の1枚」コーナーで、柏ヶ丘運動公園にあったスキージャンプ台について紹介しました。その後、収蔵写真の整理をさらに進めていくと、木製の大きなジャンプ台を写した写真を発見しました。写真の裏には「宮の上シャンツェ」と鉛筆で書かれており、以前紹介した柏ヶ丘運動公園の幻のジャンプ台で間違いないと思われます。この写真には、昭和31～32（1956～1957）年頃にジャンプ大会の閉会式を撮影したものという記録も残されていました。

美幌町内にあったジャンプ台といえば、旧美幌中学校の近くにあった「美英シャンツェ」を思い出す方も多いのではないのでしょうか。そちらは昭和7年に設置され、昭和40（1965）年に撤去されるまで多くの人々に親しまれた場所でした。美英シャンツェでス

キージャンプの魅力に触れる人が増えるにつれ、「もっと大きなジャンプ台がほしい」という声が高まりました。その要望に応じて昭和26（1951）年2月に設置されたのが、写真の「宮の上シャンツェ」です。美英シャンツェと比べても一回り大きいジャンプ台であったことが写真からも読み取れます。

「宮の上シャンツェ」は使用された期間が短かったようで、昭和30年代後半には撤去されたと見られています。その後、跡地ではジャンプ台建設の際に失われた「リンナイチャシ跡」が復元され、展望台も設置されました。現在のリンナイチャシ跡周辺は木々に覆われ、かつてジャンプ台があった面影は残っていません。

トンボの羽化は 幻想的だけれど

写真・文／鬼丸和幸



美幌町福住地区にある「美幌温水ため池」では、四季を通じて、様々な生き物たちの姿を見て楽しめます。特に、41種類ものトンボの仲間が、このため池を利用しており、美幌町一のトンボ観察スポットとなっています。晴れた日中に、色鮮やかなトンボの姿を見るのもいいのですが、少し早起きをして、このため池の岸辺を訪れてみると、あちらこちらで、トンボの幼虫（ヤゴ）が、成虫に羽化する幻想的なシーンを見る事ができます。

夕方遅く、ため池の岸辺の水面近くには、翌朝に羽化を控えた無数の幼虫たちが、上陸するために集まってきます。日の出前には、水草やコンクリート壁をはい上がり、羽化の最中に脱落しないように、体をしっかり固定できる場所を探し回ります。まもなく、幼虫の背中が割れ、淡い色をした美しい

成虫の体が現れます。やがて、白く薄いハネが透明に変わると、ヒラヒラと近くの草むらに向かって飛び立って行きます。

羽化中の幼虫を見ていて、わかった事がありました。それは、羽化中に意外と多くの個体が、羽化に失敗して死んでしまうことです。成虫の体が、中途半端に出たまま死んでいたり、ハネが縮んだままだったり…。羽化の時間は、トンボにとっては、体の自由がきかない無防備状態で、しかも体は、まだフニャフニャで固まっていないため、羽化中の気温や風の具合、その他ささいな事が、羽化失敗の原因になっているのでしょう。

トンボにとっての羽化とは、一生をかけた、一大勝負だと言えるのかもしれませんが。

Exhibition 展示

特別展「生き物たちの地球」
～ 11/23 (月)



Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

博物館でお宝をさがせ！

9/19 (土) ～ 10/12 (月)

美幌博物館・参加費は観覧料に準ずる
申込み／不要

敬老の日 無料開館

9/21 (月)・祝 10:00 ～ 17:00 ※「レコードを聴こう♪」は 12:00 まで
美幌博物館 常設展示室、2 階ロビー・無料

プチ工房「やってみよう！草木染め」

9/25 (金)、26 (土) 10:00 ～ 12:00、14:00 ～ 16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館 1 階 講座室・600 円

講 師／城坂結実 (美幌博物館)

対 象／どなたでも (小学 3 年生以下は保護者同伴)

申込み／美幌博物館に電話で申込み。各日 50 名で締切。

博物館講座(歴史編)「1,100 年前の美幌人は何を食べていたのか」

9/26 (土) 10:00 ～ 11:30

美幌博物館 2 階 視聴覚室・無料

講 師／太田圭氏 (京都大学総合博物館)

対 象／中学生以上

申込み／美幌博物館に電話で申込み。50 名で締切。



送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどの
ご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。



Tweet つぶやき

先日、思い立ってラジオ体操をしてみると、ジャンプする動作シーンで、
“背骨が痛くて全く飛べない”事が判明。「腰痛持ちで困ったものだ」と、これまで半分ふざけて話す事がありましたが…内心恐怖を感じた瞬間でした。運動不足、解消しなければ！（鬼丸和幸）



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】早田真莉子

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

